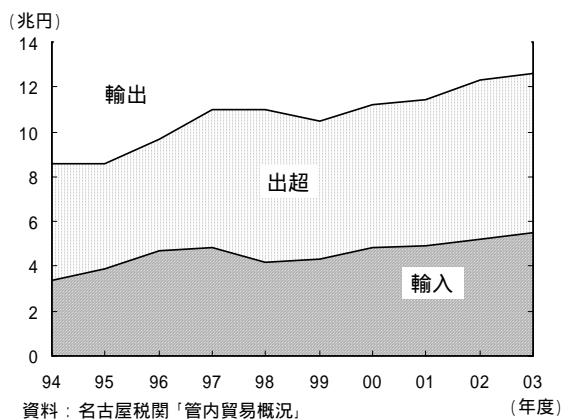


9 好調な輸出・輸入

(中部圏の貿易概況)

2003年のアメリカ経済は、前半はイラク情勢の緊迫化に伴い、消費マインドが落ち込む状況となったが、イラク戦争収束後には先行きに対する不透明感が払拭されたため回復した。さらに03年5月に可決された減税パッケージの効果が個人消費拡大に結びつき、企業部門でも生産、設備投資が増加するなど年後半は力強い回復となった。アジア経済は、03年前半は重症急性呼吸器症候群(SARS)の影響などから経済活動が停滞したものの、その後はアメリカ向け輸出などの需要拡大にも支えられ、中国においては高成長を実現した。中国の景気拡大がその他のアジア諸国・地域にも波及し、アジア経済全体の回復につながった。EU経済は、イギリスは堅調な回復を続けているものの、ドイツ、フランス、イタリアなどのユーロ圏では03年前半はユーロ高による輸出企業の収益悪化、イラク戦争による企業マインドの悪化などから生産、投資が減少し、マイナス成長となった。年後半はアメリカ経済に牽引される形で輸出の増加が、生産、投資の持ち直しへつながり、景気は緩やかに回復した。03年のわが国の経済は、輸出が引き続き好調で、年後半からは国内民需も復調してきたことなどからプラス成長となった。このような状況の中で、名古屋税関管内中部5県(愛知、岐阜、三重、静岡、長野)の貿易動向についてみると、2003年度の輸出は、4年連続で増加となった。また、輸入も5年連続で増加した。

図表9-1 管内貿易額の推移



2003年度の管内貿易額は全国貿易額の18.0%を占め、このうち輸出額は12兆6千億円で、全国の輸出額の22.5%を占め、輸入額は5兆5千億円で全国の輸入額の12.2%を占めている。輸出と輸入の差である貿易バランスは7兆1千億円(前年度7兆1千億円)の黒字(輸出超過)であり、全国9税関中トップを占め、貿易黒字額(黒字税関計)の約2分の1を占めている。輸出超過額を前年度と比較してみると、全国も当管内も増加している(図表9-1)。

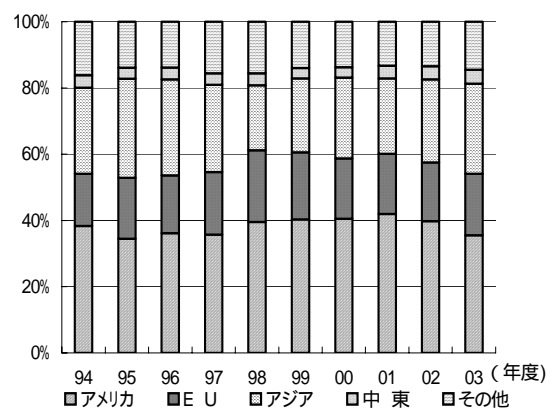
図表9-2-1 管内貿易額の主要地域別
前年度比の推移(輸出)

(単位:%)

年度	アメリカ	EU	アジア	うち中国	中東
94	5.8	3.2	10.8	-9.7	-14.0
95	-9.7	7.9	15.3	30.5	-13.2
96	17.9	7.1	9.1	22.1	25.4
97	12.3	22.5	2.6	10.8	19.1
98	10.8	15.2	-25.5	-18.5	6.4
99	-2.7	-10.9	8.4	-0.7	-21.2
00	7.3	-4.3	17.1	40.1	10.0
01	6.0	1.7	-4.7	6.7	23.5
02	1.6	4.7	18.1	43.9	11.4
03	-8.3	8.2	11.3	17.0	9.7

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表9-2-2 管内貿易額の主要地域別
構成比の推移(輸出)



(4年連続の増加となった輸出)

2003年度の管内輸出についてみると、事務用機器、船舶類は減少したものの、自動車の部分品、金属加工機械、科学光学機器などは増加したことから、輸出額は前年度比2.7%増で、4年連続の増加となった。管内の輸出先を主要地域別にみると、アメリカ向

けは自動車の部分品、電気回路等の機器などが増加したものの、自動車、原動機、事務用機器などは減少したことから、前年度比8.3%減となり、4年ぶりの減少となった。アジア向けは、アジア経済が年後半には回復基調に入ったことなどもあり、自動車、事務用機器などは減少したものの、自動車の部分品、金属加工機械、半導体等電子部品などは増加したことから、同11.3%増と2年連続の増加となった。EU向けは事務用機器、船舶類などが減少したものの、自動車、科学光学機器、原動機などは増加したことから、同8.2%増と3年連続の増加となった。

管内の輸出先の構成比は、アメリカが35.5%、アジアが27.2%、EUが18.6%となった(図表9-2-1、9-2-2)。

次に、商品別輸出額をみると、自動車は数量ベースでは280万台となり前年度比で0.7%減少し、金額ベースでは4兆7094億円で同0.2%の減少となった。また、最大の輸出先であるアメリカ向けは、現地生産が拡大したことや円高ドル安が進行したことなどから、103万台で、前年度比8.5%減、金額ベースでは2兆1649億円となり、同11.2%減となった。アジア向けは23万台で同2.5%減、金額ベースでは3252億円で同4.6%減となった。EU向けは62万台で同4.2%増、金額ベースでは9203億円で同17.3%増となった。また、2003年度の管内の自動車輸出額は、全国の自動車輸出額の52.8%(前年度53.2%)を占めている。自動車の部分品については、金額ベースでみると1兆2304億円で、前年度比8.5%増となった。このうちアメリカ向けは4780億円で同3.6%の増加、アジア、EU向けも、同17.9%増、同4.2%増とそれぞれ増加した。原動機は前年度比でアメリカ向けが12.9%減となったものの、アジア向けが同5.4%増、EU向けが同14.1%増となった。事務用機器はアメリカ、アジア、EU、中東いずれの地域も減少した。工作機械は、前年度比でアジア向けが53.3%増となり、アメリカ向けが同0.1%減、EU向けが同3.8%減となった。繊維機械は、前年度比でアメリカ向けが0.3%減、アジア向けが同11.8%減、EU向けが同33.0%減、中東向けが同22.4%減、中国向けが同13.8%減となった(図表9-3-1、9-3-2)。

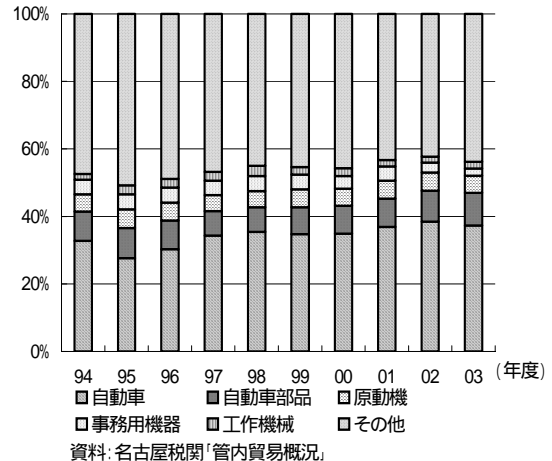
図表9-3-1 管内貿易額の主要商品別
前年度比の推移(輸出)

(単位:%)

年度	自動車	自動車部品	原動機	事務用機器	工作機械
94	-4.5	11.9	18.2	7.6	14.4
95	-15.7	3.1	7.1	3.6	54.9
96	23.0	7.8	7.2	10.0	12.0
97	28.6	-3.0	0.0	10.3	12.4
98	3.3	0.8	4.1	6.6	16.2
99	-6.4	4.4	4.5	-8.3	-28.8
00	7.1	9.2	3.3	-5.8	10.5
01	8.2	4.0	4.4	12.7	-15.5
02	11.5	18.4	11.0	-26.7	-0.8
03	-0.2	8.5	-3.4	-25.6	17.1

資料:名古屋税関「管内貿易概況」

図表9-3-2 管内貿易額の主要商品別
構成比の推移(輸出)



(5年連続の増加となった輸入)

2003年度の管内輸入についてみると、石油ガス類、事務用機器などは減少したものの、自動車、原油及び粗油、音響・映像機器などは増加したことから、輸入総額は5兆4849億円となり、前年度比5.1%増で5年連続の増加となった。

管内輸入額の主要地域別内訳をみると、アメリカは大豆、有機化合物などが増加したものの、自動車の部分品、原動機、家具などは減少したことから、前年度比で12.7%減と2年ぶりの減少となった。アジアは原油及び粗油、事務用機器などが減少したものの、音響・映像機器、非鉄金属鉱、半導体等電子部品などは増加し、前年度比で6.3%増と5年連続で増加した。EUは、アルミニウム及び同合金、魚介類(生鮮・冷凍)などが減少したものの、自動車、

自動車の部分品、原動機などは増加し、同 11.6%増と 2 年ぶりの増加となった。中東は、主要品目である原油及び粗油が数量ベースでは同 17.6%増となり、金額ベースでは同 15.6%増となった。石油ガス類においては数量ベースでは同 3.2%減、金額ベースでは同 2.5%減となった。中東からの輸入総額は同 7.9%増となった。管内輸入地域の構成比は、アジアが 45.7%、アメリカが 10.9%、EU が 14.3%、中東が 14.3%となった（図表 9-4-1、9-4-2）

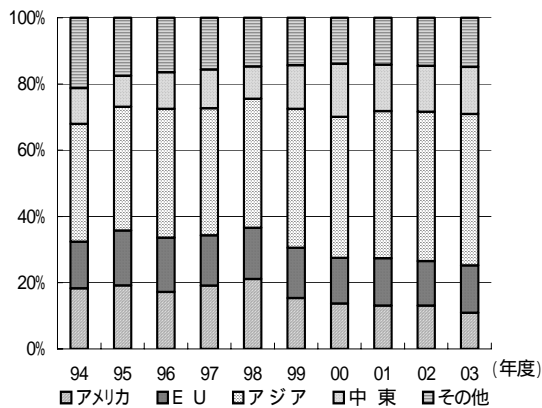
図表 9-4-1 管内貿易額の主要地域別
前年度比の推移（輸入）

(単位: %)

年度	アメリカ	EU	アジア	うち中国	中東
94	6.8	18.2	17.5	50.2	-3.6
95	21.0	21.7	20.8	44.1	0.5
96	8.2	19.1	26.1	30.7	42.0
97	15.0	-3.6	-1.3	7.7	10.4
98	-5.8	-12.8	-13.0	-3.9	-28.7
99	-24.8	-0.2	11.1	4.3	40.0
00	0.6	3.6	14.8	16.8	36.9
01	-3.0	4.5	5.3	22.9	-10.7
02	5.8	-0.2	7.7	7.9	4.6
03	-12.7	11.6	6.3	11.4	7.9

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

図表 9-4-2 管内貿易額の主要地域別
構成比の推移（輸入）



商品別輸入額では、自動車が前年度比で 13.6%増、原油及び粗油が同 9.3%増、石油ガス類が同 3.9%減となっている（図表 9-5-1、9-5-2）

（輸出・輸入とも増加した県内貿易港）

管内貿易港 10 港のうち県内には貿易港が 4 港（名

図表 9-5-1 管内貿易額の主要商品別
前年度比の推移（輸入）

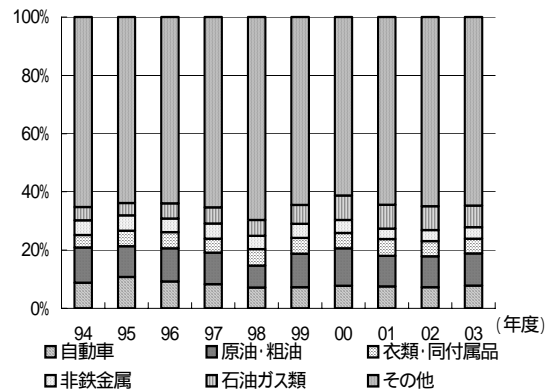
(単位: %)

年度	自動車	原油・粗油	衣類・同附属品	非鉄金属	石油ガス類
94	24.3	-3.7	53.1	31.4	-3.5
95	42.1	-0.4	45.7	20.2	6.5
96	2.6	32.4	24.5	6.6	50.7
97	-5.9	-2.1	-10.4	18.1	9.9
98	-26.8	-39.6	0.5	-24.3	-17.7
99	4.8	56.1	0.6	7.6	24.2
00	21.2	26.2	8.5	4.3	47.2
01	-2.5	-17.6	11.9	-6.3	-2.6
02	2.7	6.8	-4.2	12.7	6.0
03	13.6	9.3	0.8	7.4	-3.9

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

2001年度より非鉄金属は、アルミニウム及び同合金のみの数値。

図表 9-5-2 管内貿易額の主要商品別
構成比の推移（輸入）

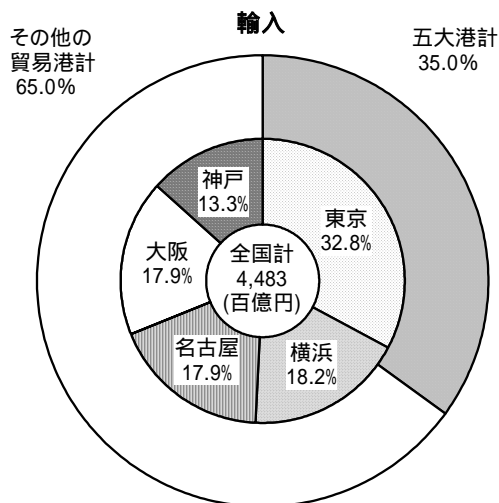
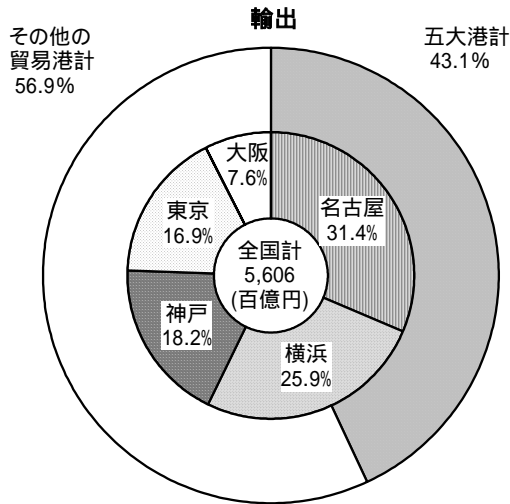


2001年度より非鉄金属は、アルミニウム及び同合金のみの数値。

古屋港、名古屋空港、三河港、衣浦港）あり、4 港の 2003 年度の輸出額は、10 兆 0001 億円で前年度比 2.3%増、輸入額は 3 兆 9856 億円で同 4.6%増となり、それぞれ管内貿易港全体の 79.2%、76.4%を占めている。管内の中心的貿易港である名古屋港の輸出額は、7 兆 5813 億円で前年度比 5.6%増と 4 年連続の増加となった。また輸入額も、2 兆 8061 億円で同 4.2%増となり 4 年連続の増加となった。名古屋港の 03 年度の輸出品は、事務用機器、原動機、金属製品などが減少したものの、自動車、自動車の部分品、金属加工機械、半導体等電子部品、科学光学機器などは増加した。輸入品では、石油ガス類、原動機、事務用機器などが減少したものの、原油及び粗油、音響・映像機器、鉄鋼などは増加した。

名古屋港は国内5大港の一つで、03年度の輸出額は5年連続で全国第1位となり、わが国輸出額の13.5%を占めている。また輸入額は、東京港(5兆1435億円)、横浜港(2兆8595億円)に次いで第3位となり、わが国輸入額の6.3%を占めている(図表9-6)。

図表9-6 全国五大港の貿易額



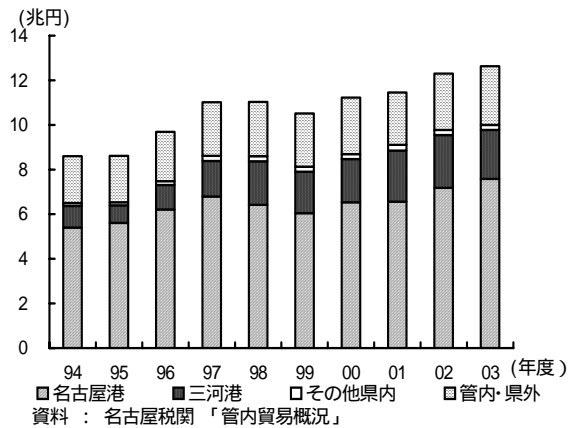
資料：名古屋税関「管内貿易概況」

県内貿易港のうち、名古屋港に次いで輸出額の多い三河港では、2003年度の輸出額は総額2兆2013億円となり、前年度比で7.1%減少した。三河港の輸出総額の97.1%が自動車であり、主な輸出先は北米、EUとなっている。また、同港の輸入額は4357億円で、前年度比12.2%増加しており、主な輸入先はドイツ、英国となっている。このうち自動車が輸入総額の81.4%を占め、全国の自動車の輸入額の39.9%

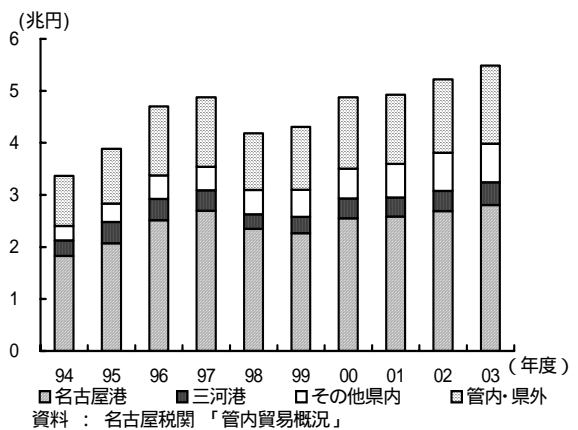
を占めている。また同港で取り扱われる自動車の輸入台数、輸入額ともに全国第1位となっている。

名古屋空港の貿易は、輸入が中心で、2003年度の輸入額は6273億円で輸出額1409億円の4.5倍となっており、前年度比では1.3%増となっている。また、事務用機器、半導体等電子部品などの機械機器が同港の輸入額全体の58.9%を占めている(図表9-7、図表9-8)。

図表9-7 管内港と県内港の輸出額推移



図表9-8 管内港と県内港の輸入額推移



2003年度の日本経済は景気回復が続いている。これは外需とともに、民間需要の復調が回復を牽引している点の特徴である。しかし民需が復調しつつあるとはいえ、生産のサポート役である外需のウエイトは依然として大きく、我が国の主要な貿易地域である当地域の日本経済における重要性は、今後とも変わらないであろう。